

## 先人顕彰シリーズの展示

ふるさとの豊かな文化の礎と、すぐれた先人の遺徳を偲ぶ…

### ◆第1次展示 H2.7-H3.6

瀬川 清子 (1895-1984)	女性民俗学の大家	(毛馬内)
杉山 万喜蔵 (1907-1957)	地域医療に貢献	(尾去沢)
小田島 樹人 (1885-1959)	気品に富んだ作曲家	(花 輪)
関直 右衛門 (1873-1943)	鹿角の観光に新時代を築いた	(八幡平)
阿部 藤助 (1886-1928)	郷土の興隆に生涯を捧げた	(八幡平)

### ◆第2次展示 H3.7-H4.6

小田島 由義 (1845-1920)	郡長として殖産興業に尽くした	(花 輪)
浅井 小魚 (1875-1947)	俳人・大湯環状列石発見者	(大 湯)
田村 徳治 (1886-1958)	日本行政学の創設者	(花 輪)
大黒 武八郎 (1872-1972)	名著「鹿角方言考」の著者	(花 輪)
渡部 繁雄 (1886-1976)	地域農業の近代化を促進	(八幡平)

### ◆第3次展示 H4.7-H5.7

阿部 恭助 (1886-1928)	鉱山日記「阿津免草」の著者	(尾去沢)
立山 第四郎 (1867-1937)	郷土の産業と教育に貢献	(毛馬内)
川村 竹治 (1871-1955)	育英会を創立した司法大臣	(花 輪)
諏訪 富多 (1883-1981)	地域産業文化の発展に貢献	(大 湯)

### ◆第4次展示 H5.8-H6.7

田中 北嶺 (1838-1918)	「戊辰戦役図絵」を描く	(毛馬内)
坂田 祐 (1878-1969)	関東学院設立と教育に献身	(大 湯)
大里 周蔵 (1884-1965)	町政に尽力した文化医師	(花 輪)
栗山 文次郎 (1886-1965)	かづの古代茜、紫根染の大家	(花 輪)
高杉 重右衛門 (1889-1964)	地方行政農事に寄与・歌人	(尾去沢)

### ◆第5次展示 H6.8-H7.9

浅利 佐助 (1844-1920)	醤油醸造業の基礎を築いた	(花 輪)
宮城 佐次郎 (1881-1951)	教育と地方自治に貢献	(花 輪)
伊藤 良三 (1883-1964)	教育と町政に尽くす	(毛馬内)
立山 林平 (1888-1918)	将来を囑望された天才数学者	(毛馬内)
阿部 貞一 (1895-1950)	農村電化と観光事業の先覚者	(八幡平)

### ◆第6次展示 H7.10-H8.9

児玉 高慶 (1888-1929)	武道を奨励し青少年を指導	(花 輪)
柴田 春光 (1901-1935)	才能をうたわれた若き画家	(毛馬内)
阿部 六郎 (1893-1974)	郷土文化の向上に貢献	(花 輪)

### ◆第7次展示 H9.10-H10.9

内田 武志 (1909-1980)	民俗学と菅江真澄の研究	(八幡平)
豊口 鋭太郎 (1873-1952)	秋田県の教育振興に貢献	(毛馬内)
種市 霊山 (1882-1945)	スケールの大きい気骨の書家	(毛馬内)

### ◆第8次展示 H11.11-H12.10

高橋 克三 (1888-1984)	湖南研究と地域先人の顕彰に尽力	(毛馬内)
-------------------	-----------------	-------

### ◆第9次展示 H12.11-H13.11

黒沢 隆朝 (1895-1987)	音楽教育と音楽起源の研究	(花 輪)
大里 健治 (1898-1978)	音楽、郷土芸能の振興に寄与	(毛馬内)

### ◆第10次展示 H13.12-H14.11

石田 収蔵 (1879-1940)	北方民族研究の草分け	(花 輪)
-------------------	------------	-------

### ◆第11次展示 H14.12-H15.11

石川 伍一 (1866-1894)	国益に殉じた生涯	(毛馬内)
-------------------	----------	-------

### ◆第12次展示 H15.12-H16.11

小松 五平 (1891-1972)	鳴子旧系こけしを継承した名工	(大 湯)
川村 薫 (1897-1976)	果樹指導と郷土新聞の草分け	(花 輪)

### ◆第13次展示 H16.12-H17.11

相川 善一郎 (1893-1986)	彫塑・彫刻など文化活動に貢献	(花 輪)
馬淵 テ子 (1911-1985)	空駆けた女流飛行家	(八幡平)

### ◆第14次展示 H17.12-H18.11

川口 月嶺 (1811-1871)	盛岡藩を代表する絵師	(花 輪)
泉澤 織太 (1777-1840)・牧太 (1778-1855)・恭助 (1806-1870)	学問のお師匠様泉澤家	(毛馬内)

## 先人顕彰シリーズ⑭

# 新しい文化を 築いた人たち

当先人顕彰館は、鹿角にゆかりの深い先人に関する

資料の発掘収集・保存・事跡の調査研究と公開展示をしております。

世界的な東洋史学者「内藤湖南」、

十和田湖の開発に尽力をした「和井内貞行」の

両氏をメインに常設展示し、

さらに各界の先覚者を順に展示紹介しております。

川口 月嶺  
泉澤 織太  
太助 恭助



鹿角市先人顕彰館 TEL 0186-35-5250

〒018-5334 秋田県鹿角市十和田毛馬内字柏崎3番地2

## Geturei Kawaguchi

盛岡藩を代表する絵師



### 川口月嶺

かわぐち げつれい  
1811-1871

南部盛岡藩の絵師は代々狩野派が占めていたが、画風が形式化するに及んで、精細な観察と雄渾な筆運びで正気深刺とした月嶺の四条円山派の作風を人々は受け入れ、領内で中心的な存在として活躍した。

絵は花鳥・山水・人物と多彩で、盛岡光台寺の「象・松」の襖絵や鹿角大日堂の「牛之図」絵馬額（焼失）の大作のほか「双鶴図」「鶏と牡丹」など多くの優作が現存している。

門人には田中北嶺、馬淵南溪、熊谷月郷等があり、長男月村もまた明治時代、岩手日本画壇の主導者であった。

### 略歴 a brief personal record

- 文化8年(1811年) 名は七之助、花輪に生まれ5、6歳の頃から絵筆にしたしむ。
- 天保2年(1831年) 画業を志して旅に出、江戸深川の鈴木南嶺門下となる。
- 弘化2年(1845年) 苦節十余年、柴田是真と共に門下の双璧と称される。望郷の念にかられ花輪に帰る。画業の門人が増え名声があがる。
- 弘化3年(1846年) 盛岡藩御抱え絵師として2人扶持を給せられ盛岡に住む。
- 安政3年(1856年) 御用絵精勤につき5人扶持に加増。奥詰め小姓格を御役御免となる。
- 慶応2年(1866年) 江戸、京都、摂津、和泉、大和、播磨、伊勢を遊歴のち隠居する。
- 明治4年(1871年) 2月、糟糠の妻静没す、62歳。7月、月嶺盛岡で没す、享年61歳。

## Orita・Makita・Kyouusuke Izumizawa

学問のお師匠様泉澤家



### 泉澤織太

いずみざわ おりた  
1777-1840

### 牧太

まきた  
1778-1855

### 恭助

きょうすけ  
1806-1870

泉澤恭助像

泉澤織太（緑泉）は大館・盛岡で漢学を学んだのち、郷里毛馬内で塾を開き子弟の教育にあたった。また桜庭家の家臣として進言するところ多かった。弟牧太、子恭助、その子熊之助と泉澤家代々の活躍は今日の鹿角学統の起点ともみられる。

織太の子恭助（修斎）は父の家塾を継ぎ、地元でお師匠様として慕われ、内藤十湾（湖南の父）など多くの逸材を育てた。また盛岡藩主利剛が鹿角巡視の際、孝経などを講じ、砲術を実演して鹿角第一の儒学者と称された。

織太の弟牧太（覆斎）は江戸に出て折衷学者朝川善庵門に入り、伊勢亀山藩儒として活躍、盛岡城中でも御前講釈をした。

### 略歴 a brief personal record

- 泉澤織太(安永6年～天保11年) 1777年～1840年  
和右衛門長男として毛馬内に生まれ、大館の黒沢源吾に2年学ぶ。盛岡にて経学と詩を学び、毛馬内に塾を開く。天保11年没、64歳。
- 泉澤牧太(安永7年～安政2年) 1778年～1855年  
和右衛門次男。叔父伊藤為憲を頼って江戸へ出奔、朝川善庵門に入る。伊勢亀山藩の藩儒となる。安政2年江戸大地震で負傷、10月没、77歳。
- 泉澤恭助(文化3年～明治3年) 1806年～1870年  
織太長男。牧太の甥。幼時から父の薫陶を受け、父没後は家塾を継ぐ。明治3年3月寸陰館花輪分館初代責任者となるも、10月病没、65歳。